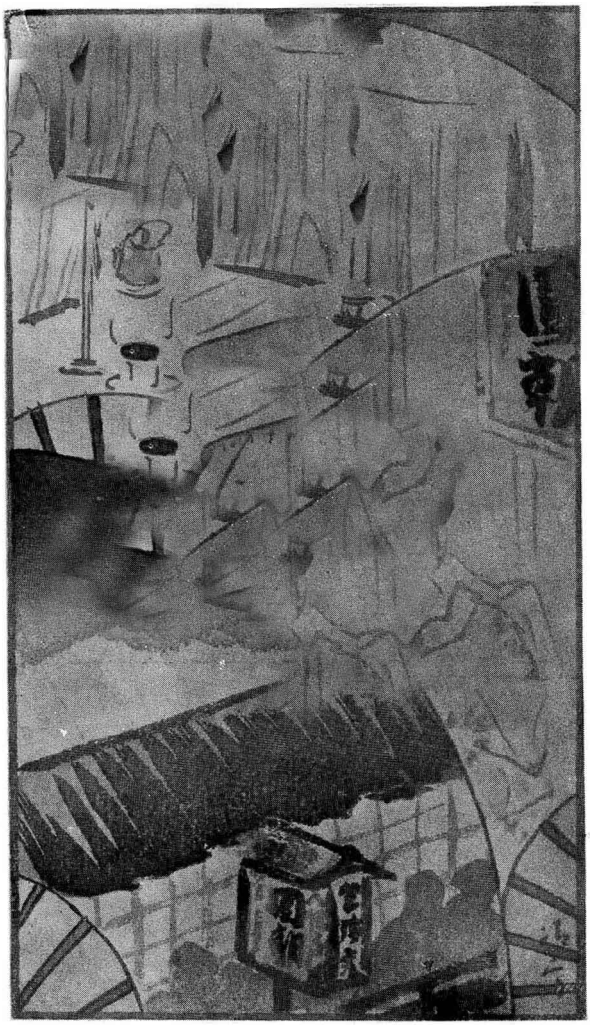
國新全集



十の巻

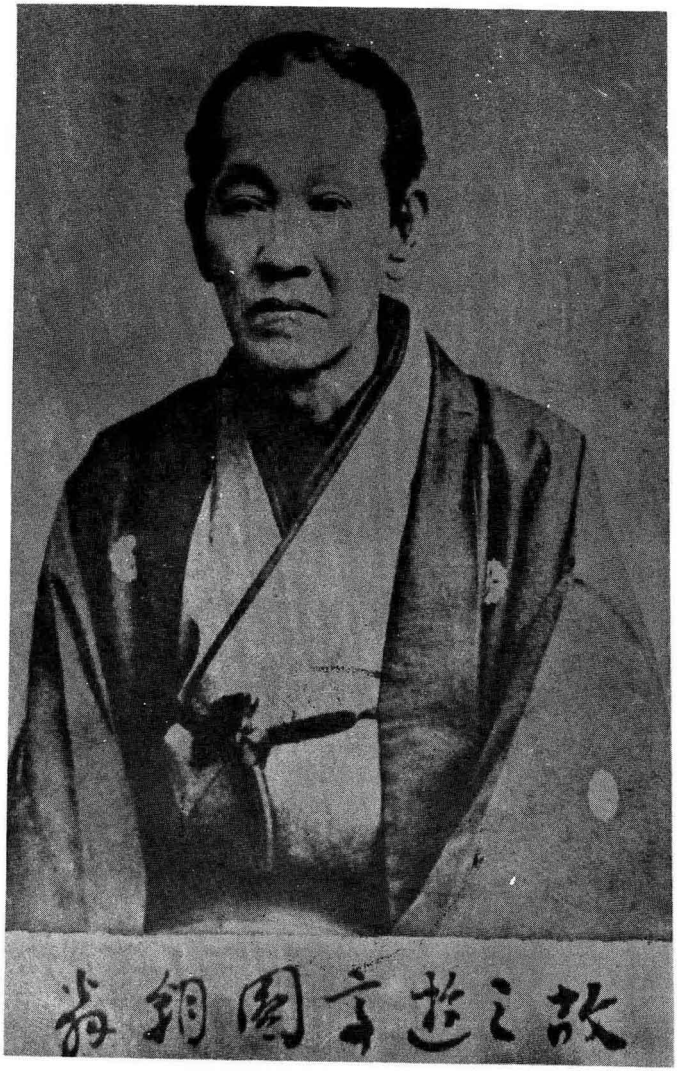
近代文芸・資料複刻叢書第四集
昭和三十九年三月十日発行

定本 圓朝全集 〈巻の十〉 全十四巻
限定版 五五〇部 定価千弐百円 〒三〇

校訂編纂者 圓朝會代表者 鈴木行三
発行者 松本富夫

限定版		
第		

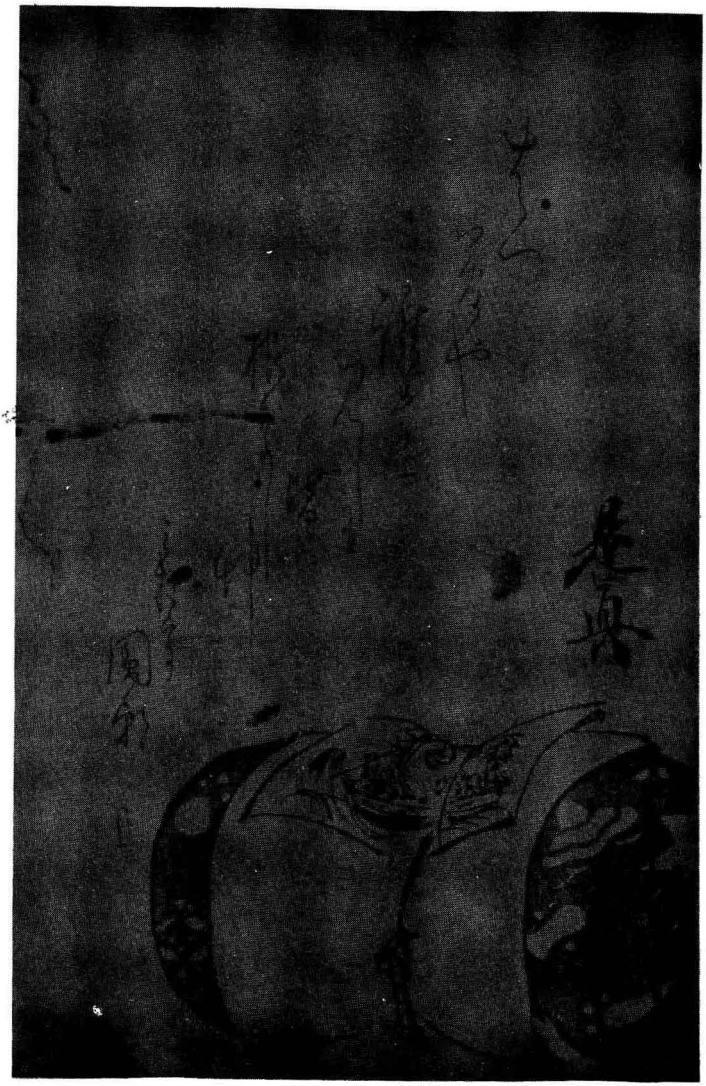
発行所 株式会社 世界文庫
東京都目黒区原町一、三五五番地
電話 東京七一三局九二四四(代表)
振替 東京七八四九八番



圓朝翁肖像

附番家語落年七十治明

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook



三遊春の風俗　是眞畫　圓朝題

後開榛名の梅ぶ香

（安中草三傳）

後開榛名梅香は、明治七年頃の作で、今日では安中草三の名は鹽原多助とともに、殆んど知らぬ者はないやうになつてしまひました。出版されたのは四六版の日本紙刷で朝香屋から分本になつて出たのが最初で、これは中絶して、其の後やまと新聞に大尾まで掲載せられたもので、挿畫の體裁の中途から變つてゐるのは、そのためであります。詳細は末卷の解說に述べてあります。

舌頭に演る所ろ筆下に盡す能はざるを惜し一処の譏誹記して紙上に為ふ白き者を成さずに黛の差異のごとく分新しき情態全く摸すに難し余が回る三遊亭大哥業として平常寄上に演ずる滑稽白き者を成し奇説その中にありて聽衆よく耳目に止まれ出暗記概略ふるを遺憾とす時に傍聽筆記法の自在を成し舌頭の若譏筆下に漏らさず謂ふ回朝之

みぞろ木幸吉
上野袋谷
大慈院
用部屋
田中岩次郎

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

上州伊香保
温泉宿主人
永井喜八郎
伊香ノ俠客
福田屋龍藏

朝香屋
芳春画
大戸ノ喜三郎
上刄安中
下野尼
觀音堂ノ省念尼

土浦藩士
恒川半三郎
吾妻清治
朝香屋春鳥

八吠爲九兵衛
角海老樓
遊女愛馴

一席の講十年の書を讀む不勝ばかりの証を得たり
来る俗子の功傷藤茅記法あるべしと亦何ぞ嗚
呼三遍亭主人が名誉を汚す勿れ名利は他人し
傷藤茅記法あるべしと亦何ぞ

明治十八年十月八日　新富座第七場
佛骨庵中の陰下に於て傷風の
天保老人　梅が香墨を磨
み学者講の稿を閲し漫に誤る
假名垣魯文

圓朝全集　卷の十　目次

口　繪

圓朝翁肖像

明治十七年落語家番附

三遊春の風俗見返し（是眞畫、圓朝題）

後開榛名の梅が香……（安中草三傳）

序　假名恒魯文
口繪　朝香樓芳春
同挿畫　同　大蘇芳年

……一

三遊春の風俗……六九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook